

4 職場の人から飲みに誘われますが…… (就業時間外の付き合い)

「自分なら、どう思いますか？ どうしますか？」

職場に配属されて半年ぐらいがたちました。先輩から毎日のように、仕事のあとに飲みに行こうと誘われます。私はお酒はあまり好きではなく、仕事のあとは早く家に帰って、自分の好きな映画を見たり、晩ごはんを作ったり、ゆっくりと過ごしたりするのが好きです。毎回断っていましたが、今日は『付き合いが悪いなあ』と言われました。どうしたらいいのでしょうか？



クイズに答えましょう

問題 上司に「仕事のあと、みんなで飲みに行こう」と誘われました。あまり行きたくないと思ったとき、次の①～③のうち、一番いい考え方はどれでしょうか。

- ① 上司の誘いなので、何があっても行くべき。
- ② 上司の誘いなので、とりあえず「参加します」と答えておいて、行く直前に断るか、途中でこっそり帰る。
- ③ 仕事ではないので、行きたくなければ行かなくてもいい。

答え ()

1. アフターファイブの付き合い

アフターファイブとは、就業時間が終わったあとという意味です。日本の多くの会社では就業時間が午後5時までであったことから、「アフターファイブ (After 5:00)」と呼ばれています。日本の会社では、勤務時間外に上司や同僚から食事などに誘われることがよくあります。こうした付き合いを、コミュニケーションのために大切だと考える人もいます。

勤務時間と私的 (プライベート) な時間をきちんと分けて考えたいという人もいます。そのように考えることは、悪いことではありません。しかし、勤務時間外の付き合いを、人間関係づくりの場と考えてはどうでしょうか。日本人の多くは、職場では仕事用の顔を見せていますが、飲み会の席※などでは、勤務時間と違って少しふだんの顔に戻ります。このため、思わず出た本音が聞けたり、自分も職場では言いにくいことが話せたりするかもしれません。勤務時間外の見合いの機会に上司や同僚をよく知ることは、仕事を進めるうえでプラスになることもあります。ぜひ、アフターファイブの付き合いに参加してみてください。

2. 職場の人との「飲みニケーション」

飲みニケーションとは、「お酒を飲む」と「コミュニケーション」を合わせてつくられたことばです。職場ではある程度の距離をおいて付き合いしている人たちも、食事をしたりお酒を飲んだりすることで、いつもより力を抜いて付き合えることがあります。職場の人とより親しくなれ、コミュニケーションがとりやすくなることから生まれたことばです。

3. 誘いの断り方

勤務時間外の見合いにどうしても参加したくないときや、用事があるときは、上手な断り方を考えましょう。上司や同僚は相手のことをもっと知りたい、自分のことを知ってもらいたいと思って誘っていることもあります。断るときには、まず、誘ってくれたことに対するお礼を言います。

なお、参加できない理由は、あまり具体的に言う必要はありません。ただし、『飲み会は嫌いなので』『自分の時間が大切なので』といった理由は、本心であっても言うてはいけません。『その日は用事がある』『今日は先約があって』といった断り方にします。そして、最後に、『また誘ってください』『次の機会には、ぜひ参加させてください』と言うと、誘った人

※飲み会の席
第3章第8節で詳しく説明しています。

も悪い気持ちにはなりません。

また、宗教上の理由や健康上の理由などから、お酒の席には参加できない人もいます。その場合は、最初に上司に説明しておきましょう。上司に誘われたからといって、ぜったいに参加しなければならないということではありません。⊗

⊗ お酒の断り方は、第3章第8節で詳しく説明しています。

4. 休日の付き合い

休日に、スポーツ大会や社員旅行など行う会社もあります。会社主催の場合は、あらかじめ予定が伝えられるため、特別な用事がないかぎり参加したほうがいいでしょう。参加することにより共通の話題が増え、コミュニケーションがとりやすくなることもあります。

また、休日に、個人的な誘いを受けることもあるかもしれません。休みの日ですから、自分にもいろいろな予定があると思います。用事があれば断っても問題はありません。ただし、この場合も、丁寧に断るようにしてください。

5. 社外の人との付き合い

社内の人と同様に、社外の人と就業時間外に食事に行くこともあります。社外の人との付き合いは、仕事の一部と考えていることも多いため、社外の人から誘われたときは、なるべく参加したほうがいいでしょう。

また、お客さまを高級なレストランに招待したり、休みの日にゴルフなどに招待したりすることがあります。仕事上の関係をよくする目的があり、「接待」といいます。接待は、会社の経費を使って行うため、近年は、経費を削減する必要から減ってきています。しかし、仕事の場以外でも、じっくりお客さまと話す機会を持つことは、仕事を進めるうえで重要だと考えられています。接待をする側になったときは、常にお客さまが楽しんでいるかに気を配りましょう。食事をする場合は、お客さまが上座に座り、接待をする側の会社の人には下座に座ります。⊗接待の場の主役はお客さまですから、お酒の席で自分のほうが飲みすぎたり、カラオケで自分一人だけ歌いすぎたりしてはいけません。

⊗ 上座と下座については、第4章第3節で詳しく説明しています。

理解を深めましょう!

1. あなたの国から来日したばかりの後輩に、「就業時間外の付き合い」について大切だと思ふこと、知っておいてほしいと思ふことを説明しましょう。

2. 次の文章を読んで、()の中に、正しいものには○を、間違っているものには×を入れてください。

- ① アフターファイブというのは、「仕事が終わってから」という意味でつかわれることもある。 ()
- ② 上司に飲み会に誘われたら絶対に断ってはいけない。 ()
- ③ 飲み会では、気を楽しんで、思っていることは何でも言ってもいい。 ()
- ④ 休日の集まりに誘われたとき、用事があれば断ってもいい。 ()
- ⑤ 上司からの誘いを断るときは、まず、誘ってくれたことのお礼を言う。 ()

3. 部長から、日曜日に部長の家に遊びに来るように誘われました。特に予定はありませんが、家でゆっくりしたいため、断りたいです。次の①～③のうち断ることとして一番いいものを選んでください。

- ① 「日曜日はちょっと……」
- ② 「申し訳ございませんが、日曜日は予定がありますので」
- ③ 「すみませんが、日曜日は家でゆっくりすることに決めています」
- 解答 ()

5 電話のあとに先輩に注意されましたが…… (ウチとソトの関係)

「自分なら、どう思いますか？ どうしますか？」

会社での電話対応にもだいぶ慣れてきました。今日も田中課長あてに電話がありました。席にいなかったのに、『あいにく、田中課長は席をはずしております』と伝えて、伝言もきちんと受け取ることができました。

しかし、電話を切ると、先輩に『自分の会社の人のことを言うとき、田中課長と言ってはダメだよ』と言われました。どう言えばよかったのでしょうか？



クイズに答えましょう

問題 お客さまと話すとき、次の①～⑦は、ウチとソトのどちらの言い方でしょうか。それぞれ選んで、()の中に入れてください。

- ①父 ②お父さん ③お父さま ④母 ⑤お母さん ⑥お母さま
⑦家族 ⑧ご家族 ⑨当^{とうしゃ}社 ⑩御^{おんしゃ}社 ⑪貴^{きしゃ}社 ⑫弊^{へいしゃ}社
⑬意見 ⑭ご意見 ⑮荷^{にもつ}物 ⑯お荷^{にもつ}物

A：ウチ ()

B：ソト ()

理解しましょう

1. ウチとソト

自分のお父さん・お母さんのことを上司に話すときは、父・母と言います。お父さん・お母さんは自分の家族、つまり、自分のグループであり、上司は自分の家族ではない、つまり、別のグループだからです。

日本の社会では、自分が属しているグループとそれ以外のグループを、「ウチ」と「ソト」と呼んで区別しています。ウチとソトでは、態度やことばづかいが違います。敬語[※]をつかうときは、ウチとソトの区別によって、尊敬語と謙譲語を使い分けます。

ウチとソトの関係を考えるとき、一番大切なのは、今、自分がどのグループにいるかを把握することです。自分がいるグループは状況によって変わるため、状況を判断しなければならないのです。

2. 職場でのウチとソト

自分の会社の中では、上司や先輩に対して敬語をつかいます。上司の行動には尊敬語をつかって、自分の行動には謙譲語をつかいます。つまり、自分と上司は違うグループと判断しているのです。

しかし、この状況に違う会社の人が入ってくると、グループの判断が変わります。グループの区別は「自分の会社の人」と「違う会社の人」で判断します。そして、自分の会社の中では違うグループだった上司と自分は同じグループになり、違う会社の人とは別のグループになります。このため、違う会社の人々が敬語をつかう対象になり、その人の行動には尊敬語を、自分の会社の人（上司と自分）の行動には謙譲語をつかうことになります。

行動だけではなく、ものや人の呼び方も変わってきます。たとえば、お客さまの会社は「御社」、自分の会社は「弊社」と呼びます。そして、会社の中では、「松本さん」「渡辺社長」と呼んでいた同僚や上司のことも、お客さまの前では、「松本」「渡辺」あるいは「社長の渡辺」と呼びます。

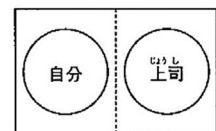
なお、「社長」や「部長」といった役職名は、日本語では「さん」や「様」のような意味（敬称）となりますので、注意してください。

3. 状況で変わるウチとソト

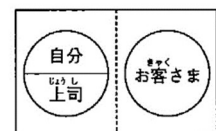
1. 2. のとおり、ウチとソトは、状況によって変わります。1. では、別のグループであった上司と自分ですが、2. のように別の会社の人が入ることによって、上司と自分は同じグループになります。それでは、自分の会社の中に、上司の家族が入った場合を考えてみましょう。

※敬語
第5章第1節で詳しく説明しています。

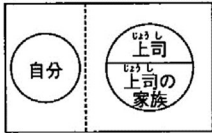
ウチとソトの関係
①社内



②社内と社外



かんけい
ウチとソトの関係
③社内(上司の家族)



じょうし じょうし じょうし じょうし
上司と自分と上司の家族の3人をグループに分けると、上司と上司の家族が同じグループになり、自分は別のグループになります。つまり、上司と上司の家族が敬語をつかう対象になり、上司の行動と上司の家族の行動には尊敬語を、自分の行動には謙譲語をつかうことになります。

●ウチとソトの呼び方●

自分に関するもの	お客さまに関するもの
父	お父さん／お父さま
母	お母さん／お母さま
家族	ご家族
とうしゃ へいしゃ 当社／弊社	おんしゃ きしゃ 御社／貴社
いのうえ かちょう いのうえ 井上／課長の井上	いのうえ ！ いのうえ かちょう 井上さん／井上課長
意見	ご意見
にもつ 荷物	にもつ お荷物

あいて
相手の親のことは、「お父さん」「お母さん」ということばもまちが
ありませんが、上司の親について話すときは、もう少し丁寧ていねいに「お父さま」「お母さま」ということばのほうがよいです。また、相手の会社についての「御社」「貴社」ということばは、同じようにつかわれますが、「貴社」は書きことば※で多くつかわれます。⊗「住所」のように音読みすることばには、一般的に「ご」を付けます。また、「名前」のように訓読みすることばには、一般的に「お」を付けます。ただし、「電話」のように、訓読みでも「お」を付けて「お電話」とするという例外もあります。

※書きことば
第5章第2節で詳しく説明しています。

⊗「キシャ」という音には、貴社以外にも、帰社、記者、汽車など、いろいろなことばがあります。同じ音の漢字については、第5章第3節で詳しく説明しています。

⊗情報管理については、第2章第7節で詳しく説明しています。

4. 親しくなっても「ソトはソト」

ウチとソトの関係は、状況によって変わりますが、自分が会社の一員であることには変わりありません。会社の内部情報などは、ソトの人に絶対にもらさないようにします。⊗特に、親しい友人と会っているときなどには、自分と相手は同じ仲間だと考え、何でも言いたくなってしまうことがあるでしょう。

しかし、親しい人でも「同じ会社の人」でなければ「ほかの会社の人」です。相手に話してもいいことと話してはいけないことは、きちんと判断しましょう。

1. ジャパン物産の佐藤さんは、ワールド商事の山田部長を訪問して、上司の渡辺課長を紹介し
ます。次の①～⑤の () に入ることばとして、A Bのうち正しいものを選んでください。

●ワールド商事のビルの前

佐藤：『① (A：渡辺課長／B：課長の渡辺) は、ワールド商事を訪問なさるのは初めてですか』

渡辺：『いや、引っ越しをする前のビルにはよく行っていただけね。このオフィスは初めてだよ』

●ワールド商事の会議室

佐藤：『② (A：山田部長さん／B：山田さん)、こちらは弊社の③ (A：渡辺課長／B：課長の渡辺) でございます』

渡辺：『はじめまして。渡辺でございます。いつも④ (A：佐藤さん／B：佐藤) がお世話になっております』

山田：『こちらこそ。⑤ (A：佐藤さん／B：佐藤) には、いつもよくしていただいております』

2. 次の①～③の場面での会話について、() の中に正しいことばを入れてください。

① 電話での会話

さくら商事の田中：『はい。さくら商事でございます』

ふじ物産の山田：『ふじ物産の山田です。お世話になっております』

さくら商事の田中：『こちらこそ、お世話になっております』

ふじ物産の山田：『鈴木課長をお願いします』

さくら商事の田中：『(鈴木課長→) は、ただ今席を(はずしている→)』

② 電話での会話

さくら商事の田中：『はい。さくら商事でございます』

さくら商事の鈴木^{つま}の妻：『私、鈴木の家内でございます。主人がいつもお世話になっております』

さくら商事の田中：『こちらこそお世話になっております』

さくら商事の鈴木^{つま}の妻：『鈴木課長→) は、(いるか→)』

さくら商事の田中：『(鈴木課長→) は、
少々席を(はずしている→)』

さくら商事の鈴木^{つま}の妻：『そうですか。では、またかけなおします』

③ 社内での会話

さくら商事の田中：『課長、お帰りなさい。(どこにいたのか→)』

さくら商事の鈴木：『ああ、申し訳ない。経理部の村田部長と話し込んでしまっ』

さくら商事の田中：『課長、20分ぐらい前に(鈴木^{つま}の妻→) から
(電話があった→)。
また、かけますと(言っていた→)』